

平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震 1:25,000詳細活断層図（活断層

・地形分類及び地形の変状）について

星野実（国土地理院）・中田 高（広島工業大学）・石山達也・今泉俊文（東北大学）・
岡田篤正（立命館大学）・鈴木康弘（名古屋大学）・堤浩之（京都大学）・八木浩司（山形大学）・
渡辺満久（東洋大学）・鈴木義宜・田中庸夫・岩橋純子・高橋広典・吉武勝宏（国土地理院）

1:25,000 Active fault map on the IWATE-MIYAGI NAIRIKU Earthquake in 2008

Minoru Hoshino, Takashi Nakata, Tatsuya Ishiyama, Toshi f umi Imaizumi, Atsumasa Okada,
Yasuhiro Suzuki, Hiroyuki Tsutsumi, Hiroshi Yagi, Mitsuhsa Watanabe, Yoshinori Suzuki,
Tsuneo Tanaka, Junko Iwahashi, Hironori Takahashi, Katsuhiko Yoshitake

1. はじめに

国土地理院は、平成20年6月14日に発生した「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」による被災地の復旧・復興に寄与するため、地表に現れた地表地震断層、崩壊、地すべり、土石流等の分布を表示した「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震1:25,000詳細活断層図（活断層・地形分類及び地形の変状）」を平成21年10月に作成した。

この地図には、今回の地震による被害及び地震に伴う活断層及び地形の変状が分布する一関市、栗原市、奥州市及び平泉町が含まれる東西約19km、南北約23kmの範囲を、2万5千分1地形図4枚分に相当する四六判(788mm×1091mm)の用紙に印刷した。表図は、地形図・陰影図を灰色にし、その上に活断層、地形分類等（6色）の7色、裏図は4色で表示した。

2. 表示内容

(1)表図

活断層、地震時及びその後の地すべり、斜面崩壊、土石流、河道閉塞による湛水域などを表示した。また、地震前の地形情報として、地すべり、崩壊、台地・段丘地形などを表示した。

活断層は、今回の地震による地表地震断層とその可能性を示唆する地変及び地震前の活断層について、既存の文献及び空中写真の判読、現地調査を行い表示した。

地すべり地形（新・旧）、斜面崩壊、土石流、河道閉塞による湛水域などについては、新たに空中写真の判読により分布図を作成した。

2)裏図

今回の調査内容等について以下の解説を行った。

①作成の目的、②地震の概要、③地震に伴う活断層や地形の変状、④活断層の分布については、餅転(もちころばし)、岡山、?(はの)木立(きだち)地区の詳細な地形分類図（図-1）の作成及び?木立、岡山地区の地震前後のレーザーデータ比較による差分図、⑤崩壊、地すべりでは、荒砥沢ダム周辺の地すべり地形及び地震前・後4時期のレーザ陰影図の比較と地すべりに伴う地盤の変動図、⑥レーザーデータの差分により明らかになった磐井川付近の地震による地盤変位、⑦磐井川の河道閉塞による堰止湖の変化⑧栗駒岳土石流と駒の湯付近の地形変化等について記載した。

なお、今回の調査では、レーザーデータの計測を行い、このデータから作成した様々な出力図を参考に活断層やその他の地形の抽出に活用した。